

令和7年度自己評価表

鳥取県立米子東高等学校全日課程

<p>中長期目標</p>	<p>1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のもの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。</p> <p>2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。</p> <p>3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的且つ明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>1 主体的な学びの推進 2 豊かな人間性の育成 3 生徒・保護者・地域に信頼される学校 4 働き方改革の推進</p>
--------------	---	----------------------	---

年 度 当 初			評 価 結 果 () 月				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的な学びの推進	ICTを活用したアクティブ・ラーニング等による授業改善と適切な評価	<ul style="list-style-type: none"> 授業においては課題や資料の配信、小テストなど様々な形でChromebookを活用している。 授業外においてもSHR連絡、学習時間調査、各種アンケート等、積極的にChromebookを活用している。 11月に外部講師を招聘し、授業等でのより効果的なICT活用に関する教職員研修会を実施した。 授業アンケートを全教科・科目で実施し、「この授業はICTを活用したのになってきた」の間に、「そう思う」との回答が53.7%、「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に「そう思う」との回答が62.2%であった。 開講科目ごとにルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を行い、考査や平常点なども考慮した総合的な学力評価を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートで、「この授業はICTを活用したのになってきた」の間に、「そう思う」と回答が60%以上 授業アンケート「この授業は自分にとって満足のいくものだった」の間に「そう思う」との回答が65%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを活用し、授業改善を行う。 各教科ともルーブリックに基づき、パフォーマンス評価を適切に実行する。 ICT活用に関する教職員研修会を実施し、効果的な利用方法を研究する。 Chromebookを活用し、課題等の配信を行う。 			
	SSH事業に取り組むことで、科学探究力・情報発信力、実践力を身につけ、よりよい社会の実現を目指すチャレンジャーを育成	<ul style="list-style-type: none"> 各種科学コンテスト・土曜活用事業等実施事業など内外コンクールやコンペへの総参加者数は94件・1025人であった。その内、上位大会へ出場する者は12件・30人であった。 4年連続「科学の甲子園」全国大会に出場し総合成績で全国9位、「エコノミクス甲子園」全国大会出場、インド工科大学ハイデラバード校(IITH)海外研究交流会参加など文系・理系問わず、生徒の活躍が見られた。 学校設定科目「課題探究基礎」では、週一回の担当者会において、授業の進捗・課題を把握・共有し、内容の改善につなげた。 学校設定科目「課題探究応用」では、「打って出る」目標と研究を結びつける取組や定期的な担当者による面談により、先行研究を踏まえた仮説を立てることができた。中間発表では大学教員に専門的な見地からのアドバイスを受け、探究力が向上した。 学校設定科目「課題探究発展」では全員「継続課題探究」とし、イノベーション成果発表会において外部の有識者を含む多くの聴衆の前でポスター発表または英語口頭発表を行った。 学校満足度アンケート「独自のものを創り出そうとする姿勢(独創性)は増したと思いますか」の間の肯定的回答は70.4%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種科学コンテスト・土曜活用事業への参加など内外コンクールやコンペへの参加者数について、総参加者で120件・1200人以上 予選を通過して上位大会へ出場する者 20件・50人以上 学校満足度アンケート「独自のものを創り出そうとする姿勢(独創性)は増したと思いますか」の間に肯定的回答が75%以上 SSH2期中間評価を踏まえた取組の改善並びに、3期目申請・承認に向けた計画的な準備 	<ul style="list-style-type: none"> 「打って出る」の研究と進路目標を結びつける取組を継続する。 探究(研究)の質向上に向け、外部有識者や卒業生ティーチングアシスタント等による研究助言や発表指導を行う。 学校設定科目「課題探究基礎」「課題探究応用」「課題探究発展」の内容を改善し、主体的探究活動のさらなる推進を図る。 卒業生や女性研究者等の講演会を実施し、高い志を育成する。 イノベーション成果発表会を1・2年次生に公開し探究活動の深化・継続を図る。 教育課程の検討、成果の分析指標の改善、他校との連携、教員研修等を行う。 			
	高い目標に向かって努力する生徒を育成する進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学合格者204名(現役合格173名)、難関大学合格者数42名。 国立大学の総合型選抜入試では24名が出願し14名合格、学校推薦型選抜入試では35名が出願し21名が合格した。 3年次生講習(夏季・放課後・2月)は多数の生徒が受講している、延べ1,357名(R5年度1,172名) 夏期講習 1年次259名(令和5年度 188名) 2年次 98名(令和5年度 66名) 冬期講習 1年次168名(令和5年度 79名) 2年次128名(令和5年度 39名) 東京大学訪問に27名が参加した(令和5年度 13名)。 マザーハウス代表 山口絵理子氏、京都大学名誉教授 阿形清和氏など社会で活躍する著名人を招聘し講演会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学合格者220名以上(現役合格者180名以上) 難関大学合格者70名以上 	<ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試は生徒の志望を把握し適切に活用する。 生徒の状況を把握し個別学力試験対策の強化(授業・講習)を行う。 東京大学訪問を実施する。 高い志を持つよう社会で活躍する著名人の講演会を実施する。 			
2 豊かな人間性の育成	主体性・自律性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自主的・主体的に掃除や挨拶をする生徒が多い。 学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の間の肯定的な回答は94.7%。 生徒会を中心として生徒が主体的に、校則の見直しやSDGs活動、TEASの推進に取り組んだ。 総運動者数は、令和5年度比27%増(321人)であった。 花火打ち上げを始め、学校祭の企画・運営に生徒が主体的に取り組むことができた。 自転車用ヘルメットはほとんどの生徒が着用しているものの、登下校中に着用しない生徒もみられる。 学校満足度アンケート「あなたは主体的に学校生活を送っていると思うか」の間に肯定的回答は86.7%。 問題行動件数3件。 	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の高揚 主権者意識の高揚 学校満足度アンケート「掃除や挨拶にきちんと取り組んでいるか」の間に肯定的回答が95%以上 生徒会活動やTEASの推進 運動者数を前年度比10%減(延べ290名以下) SDGsの推進 学校満足度アンケート「あなたは主体的に学校生活を送っていると思うか」の間に肯定的回答が85%以上 問題行動件数0件 自転車用ヘルメットの着用徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除と挨拶を徹底する。 主権者教育や環境教育など、各種領域教育を実施し、社会参画への態度を育成する。 遅刻確認票による遅刻指導の徹底をする。 平常の生徒指導を徹底し、問題行動を未然に防止するなど迅速で適切な対応をする。 「あいさつ・マナー運動」を行い、交通安全やヘルメット着用の呼びかけを行う。 			
	部活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 国民スポーツ大会セーリング競技大会において、少年女子ILCA6で優勝した。 中国大会・近畿大会出場の部活動等は令和5年度の56から61へ、全国大会出場の部活動等は26から28へと増加した。 「部活躍報告」で県大会等で上位に入賞した部活動を表彰し、本校のHPに掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学業と部活動の両立 運動部活動 県大会ベスト4以上 文化部活動 中国ブロック大会以上 中国大会・近畿大会出場の部活動等の総数50以上 全国大会出場の部活動等の総数が25以上 	<ul style="list-style-type: none"> 中国大会・全国大会へ出場する部活動を増やすために指導方法の改善と工夫を推奨する。 「部活躍報告」を行うことによって、賞賛する機会を設ける。 			
	体験的な学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> 台湾桃園市立陽明高級中学の生徒と本校の生徒9名がオンライン交流を実施した。(5月) グローバルリーダーズキャンパスの受講希望者7名(令和5年度 14名)全員が県の審査を通過(令和5年度 6名)し、受講生として参加した。また、令和5年度の受講生のうち1名が最優秀受講生に選ばれ、スタンフォード大学での表彰式に参加した。(8月) アメリカ合衆国研修(サンディエゴ・8月)に10名、台湾研修(12月)に30名が参加した。 オーストラリア研修(ケアンズ)に29名、SSHオーストラリア研修(アデレード)に10名が参加した。(3月) 海外研修等に全校の1割以上の生徒(84名)が参加した。 図書館の貸出冊数は6,904冊(令和5年度 8,361冊)だった。 各学年の人権教育LHRでは、参加型・対話型の授業実践により、生徒の主体的参画を一定程度促すことができた。 学校満足度アンケート「将来の目標を決めた上で学習していますか」の間の肯定的回答は79.4%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒及び教職員の人権意識の深化 海外研修等に全校の1割以上の生徒(84名)が参加 読書活動の充実を図り、貸出冊数を7,000以上 ボランティア活動への積極的な参加 何事にも妥協せず、理想を追求する生徒の育成として、学校満足度アンケート「将来の目標を決めた上で学習していますか」の間に肯定的回答が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 台湾桃園市立陽明高級中学・新竹女子高級中学との交流を推進する。 海外研究機関との交流を行う。 海外研修へ積極的に派遣する。 海外研修に参加した生徒の体験発表会を実施する。 新刊紹介や行事に関連する書籍紹介を積極的に行う。 SSHアメリカ合衆国研修、SSH沖縄研修、オーストラリア研修を実施する。 体験型ワールドカフェ形式など、参加型人権教育公開LHRを実施する。 			
3 生徒・保護者・地域に信頼される学校	P.T.A活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> P.T.A総会(5月)、各学年合同保護者会(5・6月)、各種委員会を実施し、学校の目標や現状、P.T.A活動等について保護者と共有した。 P.T.A進路講演会を7月に実施し、保護者280人(内138人オンライン視聴)が参加した。 「高校生あいさつ・交通マナー運動」(9月)を学校周辺の通学路で行い保護者13人が参加した。 P.T.A大学訪問(11月)を行い保護者24名が広島大学を見学した。 P.T.A生徒育成委員会において生徒・保護者・教職員の意見交換会(1月)を行った。 P.T.A人権教育推進委員研修会を1月に実施し、8名参加した。 米東だより113号、114号、115号、号外の教職員紹介号を発行した。 今年度より保護者宛の案内文書をマチコミメールで配信し、P.T.A活動の連絡や出欠確認もメールで行っている。 県人教や全人教など、外部主催の研修会に保護者からの積極的な参加があった。 P.T.A人権教育推進委員会機関誌は年度末に発行したが、P.T.A研修会は実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と教職員の連携によるP.T.A活動の活性化 各P.T.A活動に参加する保護者が前年度数より増加するよう取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> P.T.A役員と担当教員が連携し中心となって、各委員会活動が充実した内容となるように努める。 マチコミメールで、保護者にP.T.A活動等の案内・連絡・出欠の確認を行い周知する。 保護者に対し校内・校外の研修への参加を積極的に呼びかけ、参加者の研修報告を委員及び保護者全体で共有する仕組みを確立する。 P.T.A総会と各学年の合同保護者会を同日に開催する。 			
	地域への発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動の活躍など生徒の活動を写真やコメント付きでホームページで発信することが出来た。 ホームページ更新回数は158回(令和5年度 122回)。 学校満足度アンケート(保護者)「学校のHPは必要な情報をタイムリーに発信しているか」の間の肯定的な回答は81.9%(昨年74.5%)。 国民スポーツ大会セーリング競技優勝祝勝会など3件の報道提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な学校情報の発信による地域・保護者への学校理解の促進 学校満足度アンケート(保護者)「学校のHPは必要な情報をタイムリーに発信しているか」の間の肯定的な回答が85%以上 地域との連携強化や学校運営協議会との適切な連携・協働による地域とともにある学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページにより積極的に学校情報を発信する。(150回以上更新) ホームページを迅速に更新する。 学校運営協議会を定期的に開催し、熟識して地域等との連携を深めた学校運営を行う。 報道提供を積極的に行う。 			
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレスで職員会議を実施した。 採点ソフト百問繚乱の利用を促進し、多くの教員が利用した。 担任2人で協力してSHR、LHRやキャリア・バスポート等の業務を分担して行い、業務改善に努めた。 時間外勤務の月45時間超の者は延べ22名、年間360時間超の者は8名。 	<ul style="list-style-type: none"> 「県立学校教育職員の勤務時間に関する方針」に定める上限時間の遵守 時間外勤務の月45時間超の者を0名へ、年間360時間超の者を0名にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「鳥取県立米子東高等学校部活動に係る方針」を遵守するとともに、声掛け等により個々の業務の効率化を促す。 業務を分担するために担任2名制を基本とし、3年次理系の一部はチーム担任制とする。 			
	会議の精選	<ul style="list-style-type: none"> 検討事項に関して、事前にClassroomで資料を配信したり予告を行ったりするなど、会議における協議の時間の短縮に務めた。 ノー会議月間を11月に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 協議スキームを徹底し、会議・委員会の開催回数と時間を削減 	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼後に分掌の打合せを行い、業務の効率化を進める。 今年度も11月にノー会議月間を設定する。 			

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]